

令和5年度第3回山口南警察署協議会会議録

開催日時	令和6年2月19日（月） 午後3時30分から午後5時10分までの間	
開催場所	山口市小郡下郷3848番地1 山口南警察署4階 講堂	
出席者	委員	原田委員、上野委員、伊藤委員、仙石委員、宇佐川委員、 勝股委員 計6名
	警察署	署長、副署長、会計課長、警務課長、留置管理課長、 生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計10名
議題	1 業務説明 2 交通事故抑止対策の推進	
<p>1 会長挨拶</p> <p>前回は、初めてのオンラインによる警察署協議会であったため、本日は、久しぶりに皆様と顔を合わせる事となったが、やはり、この会議は対面で行うことが大切だと感じる。</p> <p>さて、本年に入り、元日には石川県能登半島で大きな地震が発生し、多くの方が被災され、連日の報道に心が痛んでいるところである。さらに、1月2日には羽田空港で衝突事故が、1月3日には北九州市で大規模火災が発生し、波乱の幕開けとなった。</p> <p>私たちのおごりや慢心を戒めるための竜のお告げではないかと感じているところであるが、このような困難な状況でも、山口南警察署には、慎重に一步ずつ前進することを期待している。</p> <p>本日の諮問事項は「交通事故抑止対策の推進」であるが、車両性能の高度化や道路環境の整備等、技術の進展により交通環境が良くなっている一方で、交通事故が無くなる気配はなく、痛ましい交通死亡事故も発生しているのが現状である。</p> <p>交通事故抑止のための課題は盛り沢山だと思うが、本日はしっかりと説明を聞いて積極的な意見や提言を行いたいので、よろしく願います。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 業務説明</p> <p>令和5年中の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明した。</p> <p>(1) 警務課関係 警察安全相談</p>		

(2) 生活安全課関係

- ア 犯罪抑止
- イ 少年非行

(3) 地域課関係

- ア 110番受理状況
- イ 地域安全活動

(4) 刑事課関係

- ア 刑法犯の認知・検挙状況
- イ うそ電話詐欺の認知状況

(5) 交通課関係

- 交通事故発生状況

4 諮問事項

交通課長が交通事故抑止対策の推進について以下の項目に沿って説明した。

(1) 交通事故発生状況

- ・ 山口県内における交通事故発生状況
- ・ 山口南警察署管内における交通事故発生状況

(2) 交通事故抑止に向けた各種取組

- ・ 高齢者の交通事故防止対策
- ・ 横断歩道の安全対策
- ・ 自転車等総合対策
- ・ 速度抑制対策
- ・ 反射材・ハイビームの活用促進

5 協議

(委員)

自転車の交通事故の映像について、このような映像を初めて見たので非常に驚いた。

(委員)

私の自治会では、高齢者も含め、ほとんどの自転車利用者がヘルメットを着用しているが、他県に行った際、ヘルメットを着用している方をほとんど見かけず、地域差があると感じた。また、自転車ヘルメット着用率の調査結果について紹介されたが、思っていたよりも着用率が低いことに驚いた。

法改正によりヘルメット着用が努力義務となったことから、自治会としても、警察と連携し、交通安全教室等においてヘルメット着用の機運を向上させる取組を推進していきたい。

(委員)

高校生のヘルメット着用率が低いことは問題である。これは、ヘルメットを着用することにより、髪型が乱れてしまうなどが原因だと思う。

ヘルメット着用促進に関する取組は、性別や年代を問うことなく効果があるもの

でなければならず、山口県交通安全学習館を利用することが効果的であるとする。

(委員)

小学生や中学生は、学校で義務付けられているのでヘルメットを着用しているが、高齢者はヘルメットを着用していないように感じる。

法律で自転車利用者のヘルメット着用を義務化する必要性があるのではないか。

(委員)

着用義務について、今後の方向性はいかがか。

(交通課長)

現在のところ、自転車利用者のヘルメット着用義務に関する法改正の話は聞いていないが、過去には、携帯電話の違反等、厳罰化されたものもあるので、将来的には取締りの対象となるなど、法改正が行われる可能性がある。

(委員)

コロナ禍では交通事故が少なくなっていたが、コロナ禍が明けた昨年から交通事故の発生件数が増えている。その原因の一つとして、心に余裕のない人が増えているのではないだろうか。通勤時間帯、車両の間を縫うように走行したり、歩行者の真横を高速ですり抜けていったりする危険なロードバイクがいる。急いでいるのかもしれないが、このような運転が交通事故を引き起こしていると感じる。

また、重大事故につながる横断歩道での事故を防止するため、特に一時停止の取締りを強化するとともに、交通事故抑止に関する広報活動を強化していかねばならない。

(委員)

ヘルメットの着用を義務化する必要性があるのではないか。

ヘルメットを購入する際に補助金を出す高校があり、実際にそのお金でヘルメットは購入されているが、全くヘルメットを着用していないというのが現実である。自転車がはねられる交通事故の映像を見たが、このような映像を見れば、ヘルメット着用の重要性を認識するのではないか。

また、学校側の取組として、ヘルメット着用を校則で義務化すればよいのではないか。

(委員)

自分だけがヘルメットを着用していると、周りから浮いてしまい抵抗があると思うので、みんながヘルメットを着用するようになれば、抵抗が無くなるのではないか。

(委員)

毎月、駐在所や交番が発行している広報紙には、ヘルメット着用について分かりやすく書かれているので、それを目にした高齢者が自転車利用時にヘルメットを着用するようになったと感じる。今後も、「反射材」「ハイビーム」「ヘルメット着用」等について、しっかりと広報紙に盛り込んでいただきたい。

また、予算等の制約があることは理解しているが、アイドルや芸能人を活用し、ヘルメットを着用した方が格好いいと思わせるような広報を行ってはいかがか。

(委員)

「ヘルメットはみんなが着用するもの。」という広報が一番良いのではないか。

みんなが着用していないから着用しないという風潮があると思う。

(委員)

ヘルメットを着用した写真を回覧する方法も効果的ではないか。

(委員)

警察がヘルメット着用に関する広報を推進すれば、みんながヘルメットを着用するようになると思う。

(委員)

自転車指導啓発重点路線について、説明のとおり、同所は狭路の通学路であり、自転車と歩行者が混雑している状況がある。

(委員)

ここでは、高校生の自転車のスピードが速く、また、ヘルメットをかぶっていないので、危険である。

(委員)

本日は、ヘルメット着用について多くの意見が出たが、あらゆる機会を捉え、ヘルメット着用に関する取組を推進していくことが重要であると分かった。高校生が、補助金を活用してヘルメットを購入したにもかかわらず、実際には着用していないという話も出ていたが、せっかく買ったヘルメットをいかにして着用させるかが今後の課題である。本日見せていただいた自転車がはねられる映像を高校生にも見せ、ヘルメット着用に関する働きかけを行う必要があると感じる。

地域からの働きかけにより、社会全体でヘルメット着用の機運を高めていくこと、自分の身は自分で守るという意識を醸成していくことが重要である。

6 配付資料

令和5年度第3回警察署協議会資料（警察署作成）

7 その他

令和6年度第1回警察署協議会の日程は、別途調整することとした。